

(様式2)

校種	小・ <u>中</u> どちらかに○	学校番号	16	学校名	宇都宮市立晃陽中学校
----	-----------------------	------	----	-----	------------

## 令和4(2022)年度 学習指導に関する取組

### 1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・小集団の中では自分の考えを伝えることができるようになってきた。しかし相手の意見を聞いて自分の考えと通じる点や相違点について吟味するということには、まだ課題がある。また、考えをまとめて建設的に意見を組み立て話すことにも苦手意識が強い。

➡対話(小集団, タブレット)を通して学びが深められるような場面の設定の必要性。

- ・基礎的・基本的内容については理解できている(個人差有)ものの、きかれていることに対して質問の意図を捉えられず、正しく答えられない生徒が多い。

文章の中から必要な情報を読み取ったり、何について問われているのかを理解したりするための「読解力」の育成を図る必要がある。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・「教科の学習は、将来のために大切だと思うか」という問いへの肯定割合は、どの学年も高い。だが毎日の学習時間は「1時間以内」または「ほとんどしない」割合も高く、学習の大切さを理解している割には将来を見据えて学習していない生徒が多いといえる。

➡家庭での学習が足りないことは、今学習していることが将来の自分にとって、どのように役立つのかが見えていないためと考えられる。今後、キャリア教育等の充実により、意識の向上を図る必要がある。

- ・話を聞いたり、話し合ったりする学習が面白いと感じている。だが、小集団での話し合いや全体での話し合いでも「自分の意見を建設的に組み立て、伝わるように進んで話すことが苦手」と感じている生徒は少なくない。

- ・「自分の考えを、根拠を上げながら話すことができる」ことや「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」ことが苦手な生徒が多い。授業において「思考のすべ」※を取り入れながら、新しい発見や豊かな発想が生まれることを楽しめるようにする必要がある。

- ・家庭学習の習慣は身につけているものの、取組む時間については、市の平均を下回っている。また、内容については、「授業で習ったことをノートにまとめる」ことが中心で、「習ったことを何度も繰り返して学習する」という生徒は少ない。

(3) 授業等への取組状況から

- ・授業や問題に真面目に取り組むことができるが、分からなかった問題や間違えてしまった問題について、できるようになるまで繰り返し学習するという生徒が少ない。

- ・与えられた課題に対して丁寧に取組むことができるが、自ら学習課題を考え、探究するという点については、苦手である。

- ・難しい課題や発問に対して、熟考することなく他の生徒にすぐに聞いたり、答えが出るのを待ったりする傾向にある。

※思考のすべ：県総合教育センター「思考力・判断力・表現力を育む授業づくり」(H27, H28. 3)

「思考力を育むために、意図的に「考えるための技法(思考のすべ)」を使用する場を設定し、発問を工夫することで、児童生徒が自然にそれを使えるようにすることが大切」と示している。

## 2 今年度の重点目標

『学力向上を目指す学習指導の改善と生徒の学習習慣の育成』

## 3 今年度の取組

(「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和4年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○)

### (1) 学力向上を目指す学習指導の改善

#### ① 主体的・協働的な学習の推進と、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

★□「宇都宮モデル」を活用して、学習課題を**はっきり**理解させ、見通しを持たせた上で、課題に**じっくり**取り組ませながら、一人一人の学びを見とり、時期を捉えた上で支援する。また、授業の終末では、身に付けるべき内容を分かりやすく、**すっきり**簡潔にまとめるとともに、本時の学びを振り返らせる。

□学習内容のまとめや振り返りを文章で書かせるなど、充実させていく。その際、授業のめあてに応じてタブレットを積極的に取り入れて活用しながら指導・支援する。

○授業において、仮説や他の考えについて検証させたり、間違いを指摘したり、修正したりする場を意図的に設定し、対話、タブレット等によって学びを深めていく力を養う。

#### ② 学びに向かう力と協働して課題に取り組む態度の育成

□授業において、実社会や実生活に関連した課題を取り上げ、主体的・対話的に取り組む態度などの「学びに向かう力」を育む。

★□グループでの学習を適切に取り入れるなどして、互いのよさを生かしながら協働して課題に取り組ませる。タブレットによる互いの意見交換の機会を意図的に設定していく。

#### ③ 読解力の育成

★□読書活動を通して様々な分野に触れることで、語彙力の強化を図る。

□文章で表された情報を的確に理解したり、正確に読み解いたりして、自分の考えの形成に生かせるようにするため、文章を読んで理解したことを基に自分の考えを書いて思考を深める学習などの充実を図る。

・文章の構成や展開について記述を基に捉える学習の機会を増やす。

### (2) 生徒の学習習慣の育成

・家庭における自主学習については、学級主導となると学習習慣を身につけさせることはできても効率的な学力向上を図るのは難しいため、基本的には教科主体で助言を行うようにする。学年・学級との連携を図りながら、充実した学習活動となるよう支援する。

・帰りの会終了後に10分間の学習時間(μの学習)を設け、学習習慣を身につけさせ、基礎的・基本的内容の確実な定着を図っていく。

★□学力調査の結果等を活用しながら個々のつまづきを明確にし、自己の学力と課題を客観的に把握させ、課題解決の支援を行っていく。

★□キャリア教育と連携しながら、「何のために学ぶのか」という学習の意義を明確にしていく。また、社会や生活と関りのある課題を設定するなどして、学習が生活や将来につながる“自分の手で未来を拓く”ことを実感させる。

□○単元や学期ごとに復習する機会や、学年末のまとめの学習月間を設けるなどして、当該学年で身に付けるべき基礎・基本を確実に習得させる。

□小・中の連携により、生徒が抱える課題について共通理解を図る。そして9年間を見通した指導について指導計画の中に盛り込んでいくことで、各種の学習調査にみられる課題を解決させる。